

津野神社

神奈地祇神社東方の津野神社は、長宗我部元親三男親忠を祀る。元親は、天正三年（一五七五）土佐統一を成し遂げた。天正六年には、讃岐に攻め込み西讃岐の雄、香川氏を配下とし、次男親和をもって香川家を継がせ、同年三男親忠を、土佐七守護の一人津野卿（現津野町・須崎市等）を治める津野氏の跡目とした。津野家二十三代津野親忠である。以後、元親は阿波、伊予、讃岐と戦につく戦を重ね、遂に天正三年（一五八五）には、念願の四国制覇を成し遂げることが出来た。しかしこれは、中央の豊臣秀吉の許すところとならず、直ちに四国征伐を受け同年七月に元親は秀吉の前に屈して、元の土佐一国となつた。翌天正十四年には、秀吉の命令



津野 様

で四国連合軍として九州島津勢との戦さに駆り出され、長男信親先頭に七〇〇名の土佐兵が死亡した。長男死亡により、長宗我部家の跡目相続の問題が起つてきた。元親は、四男盛親を溺愛していたので、跡継ぎとして盛親を選ぼうとした。長男なき後は次男、次男又死亡すれば三男と継いで行くのが当然とする家来の派と、盛親を推す派と反目が激しくなつた。そうした中悩んだ親和は病いとなり死亡、親忠は所領を没収され岩村のこの地に幽閉された。反盛親派の家来達は腹を切らされた。一五九八年豊臣秀吉病没、翌年元親は伏見で死亡、慶長五年（一六〇〇）徳川と豊臣の間の天下分け目の戦い（関が原の戦い）が起つた。西軍（豊臣側）で戦つた盛親は、敗戦後家康に詫言を入れ土佐の国の安堵を願つた。その前に盛親は、家臣久武内蔵助の策動により、親忠に腹を切らした。岩村神通寺孝山寺僧坊でそ

の命を終わつた。親忠二十九歳であった。実の兄を討つた事を知つた家康は怒り盛親を土佐の国から追放した。ここに、四〇〇年続いた土佐長宗我部氏は滅んだ。後年、親忠の霊を慰めるために親忠墓とされる五輪塔の場所に、津野神社が建てられた。初め神社の向きは南向きであった。ところが、その南を東西に通じている街道を通る人達が津野神社の前まで来ると突然馬が暴れたり、転んだりして死傷者が絶えなかつた。これはつきり不運の死を遂げた親忠の霊の祟りであろうと皆恐れ、神社の向きを東向きに変えて祀り直した。それ以来事故は起こらなかつたといわれる。現在は町村合併により、香美市土佐山田町にあり、静かな森の中でひっそりと祀られている。旧岩村地区



の神奈地祇神社の氏子の皆さんが、夏秋の神奈地祇神社祭礼に合わせて、境内の清掃を行っている。神社建物は相当老朽化している様である。津野親忠の居城のあった葉山村（現津野町）の方からも、昔の城主を慕つて参拝に訪れる人もあるようである。

藤本 眞事さん寄稿

金地へ引越し

早いもので金地に引越しして来て丸三年がたとうとしています。引越時は六人であつた家族も孫が二人増え、八人の大家族となりました。知り合いもいなく、少し不安もありましたが、静かですが、然がまだまだ残つている金地が気に入る、家族大賛成



大西家のみなさん

で引越してきました。都会では核家族化となり、近所との付き合いもなく、挨拶もしないのが当たり前のようです。ここ金地では自分の子供の頃の生活習慣が残っていて、孫を育てやすい環境でホッとしております。当初は孫と同年の子供がいなかったので心配していましたが、最近では近所の子供さん達がよく遊びに来てくれ、にぎやかにになり、うれしい限りです。とにかく近所がいい人ばかり、人情に厚く、人柄がよく、すぐに打ち解けることができました。野菜の収穫時になると必ず近所の人々が毎日のように野菜を持って来てくれる本当にありがたい気持ちでいっぱいです。又、夏まつりのふれあい祭りも、毎年参加しておりますが、スタッフの皆が一気団結してお祭りを盛り上げ楽しみにしております。まだまだ新入りの大西家ですが岩村地区の皆様仲良くして下さいネ。

大西恵子さん寄稿